

# 第1章

## 連盟誕生・リーダーがいて グラウンドがあった

1976年・昭和51年



昭和40年代に入り、日本経済は史上まれな高度成長を続けた結果、大都市に人口が集中しました。千葉市は東京に近接しているため、そのベッドタウンとして大規模団地（園生・あやめ台・花見川・幸町など）が次々と造成され1965年（昭和40年）には33万人の人口が、1975年（昭和50年）には66万人へ。また、小学校も1965年（昭和40年）42校・28,412人が、1975年（昭和50年）83校・67,557人へ、10年間で倍増しました。（千葉市のあゆみより）

昭和51年頃は、各団地・マンションなどに少年野球チームが続々誕生いたしました。1チームに子供たちが30人前後はいた時代でした。チームによっては入団テストがあったとのことでした。試合に出られるのが10人とすれば、20人は余るといった状態。その試合に出れない子供たちを救おうと、初代理事長 加藤正三氏（故人）が昭和50年秋、千葉の3チームと東京の1チームで親善試合をおこなったのが、京葉少年野球連盟誕生のきっかけです。当時の千葉市には 千葉市連盟・海浜連盟・中央連盟・西部連盟・南部連盟・千城台連盟といった6連盟と、1都3県のチームから構成されるメジャー的な関東団地少年野球連盟（昭和46年6月千葉支部創立）がありました。今でこそ各種大会が数多く開催されておりますが、当時は、部員数の多さに対して大会が非常に少ない時代でした。そんな中、加藤氏宅に同志が集い、語らっていくうちに、「地域の子供たちと野球ができる環境を作ろうではないか」という発想が生まれ、次第に京葉少年野球連盟は立ち上がっていきました。

さらに、発想を実現に導いたのは、高浜四面グラウンドの完成です。今はマンション群が林立する海浜ニュータウン・高浜公民館前の一画に、京葉少年野球連盟の誕生の礎となった少年野球専用グラウンドはありました。加藤氏の熱意による千葉市との交渉と、自費

投入によるグラウンド作りが実を結び、大会開催が可能となったことで、リーダー加藤氏と共に1976年（昭和51年）6チームによって京葉少年野球連盟が誕生し、翌年の1977年（昭和52年）に第1回春季大会・秋季大会が開催されました。



高浜四面グラウンド 地図及び現況

会長	大沢 豊		
副会長	上坂 祥夫		
大会委員長	加藤 正三		
副委員長	内野 聖三	増淵 博	
大会総務	鈴木 禧碩		
審判部長	寺岡 義則		
審判副部長	関 輝夫	吉田 功	樋口 誠一
審判部員	長野 宗義	西牧 仁	大野 行夫
	佐藤 将靱	斉藤 行雄	
大会委員	吉野 規矩男	福田 順一	小池 吉雄
	安原 重行	田島 哲夫	古山 嗣雄
	平 一彦	中野 正文	吉田 英峰
	森田 明	秋山 勝	八十島 勝一
	大久保 悦十	遠藤 哲夫	鈴木 美智夫

〔昭和57年 第6回秋季大会資料〕

会長	花澤 三郎		
副会長	中村 忠明	内野 聖三	
理事長	加藤 正三	(大会委員長兼務)	
副理事長	福田 順一	今村 富男	石川 清章
常任理事	田中 国夫	小池 吉雄	根本 利夫
	古山 嗣雄	平 一彦	菅澤 傳
			向井 是
事務局長	黒澤 章		
事務局長次	吉野 規矩男	菅谷 東雄	
会計	加藤 菊代		
会計監査	三上 政美	福島 信夫	
審判部長	高見 和士		
副審判部長	関 照夫	溜 照夫	佐藤 将靱
	西牧 仁	林 辰一	谷岡 正澄
審判委員	大野 行夫	成合 勉	遠藤 哲夫
	土屋 富雄	阿部 裕二	大野 敏彦
	瀬尾 誠	寺岡 義則	木村 洋
顧問	長谷川 実	中野 弘	市原 弘
			服田 光三

〔昭和61年 創立10周年時〕

連盟創立10周年時の加盟チーム			
秋津ボーイズ	磯辺キングスターズ	磯辺シーグルス	磯辺シャークス
磯辺トータス	稲毛ハイツイーグルス	稲丘ベアーズ	稲浜コスモス
内郷スターズ	香澄メッツ	こてはし台レッドホース	小中台ウイングス
小中台レッドウイングス	幸町カージュナルス	幸町ヤングジャガーズ	幸町グリーンホース
さつきが丘ファイターズ	さつきスターズ	さつき若潮ライオンズ	白井ユニオンズ
袖ヶ浦ボーイズ	園生ジュニアフレンド	園生わかば	高洲ストロングス
高洲セブンエース	高洲コンドルス	高浜ジュニアーズ	千草台スターズ
千代田シャークス	千代田ファイターズ	千代田レッツ	花見川ジャイアンツ
花見川少年ジャイアンツ	花見川少年タイガース	幕西イーグルス	幕西サンダース
幕西ファイターズ	真砂ハンターズ	真砂ヤングース	真砂ヤングレオ
真砂リトルベアーズ	間野台ジャイアンツ	みそらイーグルス	八街ファイターズ
あやめ台リトルジャイアンツ	こてはし台リトルフォークス		

〔注：第10回朝日旗争奪秋季大会参加クラブ 計46クラブ〕

1976-85

1986-95

1996-2005

2006-15

2016-25



1981年・昭和56年



くりくり少年野球選手権大会は、1979年（昭和54年）西武球場完成と同時に、『第1回くりくりセンバツ少年野球大会』として、西武球場に近い東京都・埼玉県から16チームが参加しておこなわれた。

本大会は、「野球を通して、スポーツマンシップに基づいたフェアプレーの精神を養い、少年の健全な人間形成と体力の増強を図る」ことを開催目的としておりました。1977年5月に毎日新聞が週刊新聞「くりくり」を発刊し、翌々年の1979年7月「くりくり選抜少年野球大会」（第10回大会よりくりくり少年野球選手権大会に改称）が開催された。

この年に西武球場（現在西武ドーム）が完成し、西武ライオンズ球団（現在埼玉西武ライオンズ）が誕生した。

第2回大会は32チーム、10回大会は38チーム、15回記念大会は北海道・札幌、20回記念大会は神奈川・厚木、群馬が参加、記念大会を機に地区を拡大し、21回大会より40チーム参加が定着した。27回大会では、茨城、栃木、山梨を加え関東大会規模になり、30回記念大会では、愛知、大阪、福岡を招待し、全国大会を目指す第一歩の大会となった。

千葉が初めて参加した1981年の3回大会は、千葉市千城台地区の「ジュニアストッパーズ」が出場し第三位に入賞した。当連盟は、1982年4回大会より参加、これにより春

季大会が「くりくり少年野球選手権大会千葉予選」の冠を得ることができ、加盟クラブに更なる目標を持ってもらえることができた。更に毎日新聞社様といった大バックボーンを得ることによって、京葉少年野球連盟のプライド構築への第一歩が始まった。

くりくり大会創世期の思い出を、毎日新聞社・三井順治氏は20周年記念誌で次のように振り返った。

## くりくりに思う

三井 順治

「くりくり少年野球選手権大会」は第10回大会からの正式名称である。少年野球の発展と、地域交流をより深めることを目的とした皆さんの総意で「くりくり少年野球連合会」が発足した。

昭和53年5月、毎日新聞が週間新聞「くりくり」を発行し、業界の注目を浴びた。そして翌年（54年）西武球場が完成し、西武ライオンズ球団（西武ライオンズ）が誕生した。そう…くり選の歴史は西武球場、ライオンズと共に歩んだ歴史でもある。

「くりくりセンバツ少年野球大会」（くり選）と命名した。

日本一の球場でチビっ子球児が打ち、投げ、走る。夢は大きく膨らむだろう。球春を告げる「センバツ高校野球大会」から…「少年野球の甲子園」を目指したのは言うまでもない。

第1回大会は16チームだった。そして1チーム5人の補強選手を認めた。これはより多くのチームに、この体験をして欲しかったからだ。

2回大会は32チーム。4回大会から本来の単独チームの姿に変更した。そして記念大会を機にチーム数を増やした。北海道からの参加は15回大会から。今年の20回大会は神奈川・厚木、群馬からも代表チームが参加、計40チームが熱戦を展開した。

大会運営は天候に左右される事もある。開会式を隣接の狭山スキー場、雨天練習場で開催した事もあった。

西武球場も、より素晴らしくなった。人工芝の張り替え、排水設備、オーロラビジョン、そして、来年にはドーム球場が完成する。

1979年「くりセン」決勝戦、球審は故・二出川延明さん。奥さんとお孫さんをとまって来られた。引退後の、おそらく最後の晴れ舞台だったと思う。年齢を感じさせないその見事なジャッジは今でも臉に焼き付いている。

試合は逆転、逆転サヨナラゲームと野球の醍醐味を最後まで見せてくれたが、時間が延びてライオンズの練習時間に入っていた。主力選手（田淵、山崎）が続々球場入り、この熱戦を声援した。

二出川さんは「少年野球はその真剣さがよい。野球はドラマだ」と絶賛。又、準決勝を観戦した当時の二軍監督・岡田さんは「プロ野球以上の素晴らしいゲームだったよ」と声をかけ激励した。



1976年・昭和51年



京葉少年野球連盟は、加盟クラブの皆さんから頂戴した年会費・大会参加費で運営しております。市などからの補助金はありません。裕福でない少年野球連盟ですが“子供たちに最高の場を提供したい”との願いを常に持っております。

毎日新聞社様の御後援を得た後、大会を盛り上げるため開会式において毎日新聞社のヘリコプターによる祝賀飛行及び始球式のボール投下を第2章でもふれました1982年(昭和57年)の第3回夏季大会・1986年(昭和61年)の第5回夏季大会と更に2005年(平成17年)第30回記念春季大会の3回おこなっております。また、加藤氏はじめ各役員の発想で、高浜小学校ブラスバンド部・近隣の子供達の和太鼓を招聘したり、開会式にいち早く地域と密接した子供達のための企画を取り入れました。

その後、こてはし台の「ユニサイクル」の皆様・美浜区のチアリーディングチーム「ベリーズ」の皆様に大会を盛り上げていただきました。大会参加チームも多くなり時間的制約のためアトラクションは残念ながら現在おこなわれておりません。また従来の開会式では参加チーム一列にセンターに集合し、二塁付近まで一斉前進するスタイルでしたが、参加チームも多くなり、くりくり少年野球選手権大会で行われている「入場行進」も取り入れたいとの思いもありました。清水事務局長は振り返る。「たまたま千葉市美浜区磯辺地区の盆踊りに磯辺高校吹奏楽部の皆さんが出演され、その際、森永副会長より演奏お願いしたところ心よく快諾していただきました。千葉マリスタジアムでの2005年(平成17年)3月29日第29回春季大会より、春季大会・秋季大会の演奏をお願いしました。

また卒部大会の開会式2月10日前後はテスト期間中とのことで演奏は無理との事が判明いたしました。その後 当時の菅澤理事長のお住まいの「こてはし台」に千葉市消防局音楽隊の隊長さんがいらっしゃるとお話があり、消防音楽隊に演奏お願いしたいと橋本顧問のご尽力を得て、消防局に書類をもって参りました。消防局の窓口の担当者は川島さん。お子さんが稲丘ベアーズに所属されており京葉のことは良くご存じでした。

そんなことで話が順調に進み2006年(平成18年)第23回卒部記念大会より演奏お願いすることになりました」



こてはし台ユニサイクル・美浜ベリーズの皆さん



磯辺高校吹奏楽部・千葉市消防音楽隊の皆さん

1986年・昭和61年



連盟に貢献した18名に花沢会長が感謝状と記念品を贈呈

京葉少年野球連盟 盛大に10周年記念

新たな飛躍めざそう

祝賀会に五百人が出席

京葉少年野球連盟がこのほど創立十周年を迎え、三月三十日、千葉市の若潮会館で活気あふれる盛大な祝賀会を開催した。同連盟は昭和五十一年八月、高洲コンドルズ、園生わかば、高浜ジュニアースなど五チームが、少年野球の親睦とレベルアップを目的に設立されたが、年を追うごとに加盟チームがふえ、現在は千葉市近隣の習志野、四街道、佐倉市の少年野球チームも加わり、五十六チーム、約三百人のちびっ子選手が年四回大会をひらいている。

祝賀会には同連盟関係者、千葉市少年軟式野球連盟、関東地少年野球連盟の役員、指導者をはじめ、来賓の市議会議員らおよそ五百人が出席した。

あいさつに立った花沢三郎同連盟会長(具議)は「連盟をこめて育ててきたのは、生みの親の一人である加藤正三理事長をはじめとする役員、指導者の少年たちへ対する情熱。苦勞はこれからも続くと思うが、さつに飛躍し、充実した連盟に成長するように一丸となって努力したい」と決意を語った。

なお、祝賀会の席上、長年になつて子供たちの健全育成にたずさわり、連盟運営に積極的に取り組んできた役員、指導者ら十五人を表彰した。

一部に加藤正三(高浜ジュニアース)、中村忠明(高洲コンドルズ)、内野聖三(幸町カージナルス)、高見和士(高洲ストロングス)、黒沢章(高浜ジュニアース)、二部、福田順一(幕西サンダーズ)、古山嗣雄(千草台スターズ)、菅沢伝(こてはし台レッドホース)、斉藤勝美(高洲コンドルズ)、寺岡義則(幸町ヤングジャガーズ)、関輝夫(幸町カージナルス)、谷間正澄(秋津ボーイズ)、林辰一(真砂ヤングレオ)、三上政美(さつきが丘ファイターズ)特別表彰に加藤繁代(毎日新聞社表彰)、大野行夫(高浜ジュニアース)、溜照雄(高洲コンドルズ)、村松清己(高洲ストロングス)

くりくり新聞で振り返る 第4回から第7回まで



第4回くりくりセンバツ少年野球大会 1982年・昭和57年

出場チーム：高洲コンドルズ

2回戦

高洲コンドルズ 1-0 上の原メンバーズ(調布)

バッテリー 只木⇒名古屋  
長打 -

高洲・只木と上の原・山岸投手の投げ合いて緊迫した試合展開。延長6回、0-0のまま勝負つかず延長線に突入。高洲の攻撃、一死二・三星から強硬策に出た。1番郡司の当たりは遊撃右を強烈に破り、試合の決着をつけた。

3回戦

高洲コンドルズ 2-1 光ジャガーズ(上尾)

バッテリー 星川⇒名古屋  
長打 郡司(本塁打)

高洲は初回先頭の郡司が左翼本塁打で先制。再三のピンチにも星川投手が冷静に切り抜け準々決勝に進出した。先制した高洲は2回にも一死から千田が内野安打して二塁・三星。星川の一塁ゴロで本塁送球がそれる間に千田が2点目の本塁を踏んだ。

準々決勝

高洲コンドルズ 3-4 前川バンビーズ(川口)

バッテリー 田上・星川⇒名古屋  
長打 郡司(二塁打)

2回までは両軍投手が好投。3回高洲は犠打で生きた山田が二進。田淵が四球後ダブルスチール。あわてた捕手が三星悪投の間二者生還。さらに安打とエラーで三進した郡司も生還して3点先制した。相手前川は4回反撃開始一死後4連打して同点5回細谷に本塁打を浴び2点リードされた。追う高洲、5回裏2塁打の郡司が捕逸で生還したか。後が続かなかった。試合後吉田監督は「くやしい。しかしここまでこられたことは本望。悔いはない」と語った。

第5回くりくりセンバツ少年野球大会 1983年・昭和58年

出場チーム：こてはし台レッドホース

1回戦

こてはし台レッドホース 2-3 ストロングファイターズ(横浜北)

バッテリー 大塚⇒下川  
長打 上飯坂(本塁打)・池田(二塁打)

延長の末ストロングがさよなら勝ち。こてはしは1回、四球と下川の内野安打で先手をとり、5回に上飯坂のランニングホームランを打ち同点。延長に入った6回裏、ストロングは敵失の高谷を二塁に置き、3番星野に左超の長打を浴びサヨナラ負け。

1976-85

1986-95

1996-2005

2006-15

2016-25

2  
回  
戦

花見川少年ジャイアンツ 3-2 ケープジャック(東久留米)

バッテリー 河野・遠藤⇒鈴木  
長打 遠藤(三塁打)・遠藤(二塁打)

3  
回  
戦

花見川少年ジャイアンツ 2-1 横川ジュニアキラーズ(墨田)

バッテリー 河野・遠藤⇒鈴木  
長打 山本(本塁打)

準  
々  
決  
勝

花見川少年ジャイアンツ 2-0 長沢団地ヤンガース(川崎)

バッテリー 河野・遠藤⇒鈴木  
長打 遠藤・林(三塁打)

花見川が河野・遠藤の完封リレーと一発長打で準決勝に進出。  
花見川は3回、好投の河野の代打山本が内野安打。トップの林が左中間の三塁打で待望の先取点。なお2番の山口が犠牲フライを打ち2点目。これをリリーフした遠藤が守りきった。

準  
決  
勝

花見川少年ジャイアンツ 0-1 加茂川ワイルドダックス(大宮)

バッテリー 河野・遠藤⇒鈴木  
長打 -

加茂川・上和田が放ったソロホームラン1発で勝負を決めた。花見川は2回、先頭越後が俊足を生かし内野安打で出塁。続く山本も左中間安打などで一塁・二塁としたが重盗に失敗してチャンスをつぶした。相手の内外野の鉄壁な守備と連続16イニング無失点の藤田投手の力投に沈黙。惜敗した。

2  
回  
戦

袖ヶ浦ボーイズ 2-1 ツバメ野球部(練馬)

バッテリー 桑迫⇒森田  
長打 佐伯(三塁打)

3  
回  
戦

袖ヶ浦ボーイズ 4-2 神代メッツ(調布)

バッテリー 桑迫⇒森田  
長打 須山・佐山(二塁打)

準  
々  
決  
勝

袖ヶ浦ボーイズ 7-0 狭山台キングス(狭山)

バッテリー 桑迫⇒森田  
長打 小菅(本塁打)・佐伯(三塁打)

袖ヶ浦が狭山台に完封勝ち。袖ヶ浦は1回、佐藤が内野安打。二死になる間に三盗。  
4番佐伯がセンター超えの先制二塁打。小菅も右超えの2ランホームランで主導権を握った。4回にも加点。最終回には先頭の磯崎が右越安打。一死後敵失などで満塁とし、桑迫・村山の連続安打で3点を加え勝利した。

準  
決  
勝

袖ヶ浦ボーイズ 0-2 大塚スネークス(豊島)

バッテリー 桑迫⇒森田  
長打 佐伯(二塁打)

大塚は3回・4回安打を絡めて加点。袖ヶ浦は1回、一死後磯崎が四球で歩き浅井の投ゴロで二進。4番佐伯の時投手の牽制球がそれ、そのスキに三盗したがタッチアウト。  
4回にも中前安打の3番浅井が佐伯の右中間三塁打で一気に本塁をついたが好返球に刺されたのが痛かった。



準決勝、花見川少年ジャイアンツ-加茂川ワイルドダックス戦のクロスプレー



準決勝、花見川少年ジャイアンツ-加茂川ワイルドダックス戦のクロスプレー



第8章

ネット裏から見た  
京葉少年野球 この10年(1)

1976年・昭和51年～1985年・昭和60年

加藤さんと私の出会い 福田順一 前理事長



昭和51年7月4日、少年野球チーム「幕西サンダース」が誕生し私の少年野球との関わりが始まりました。当時の「幕西サンダース」は初の公式戦であった関東団地少年野球連盟の秋季大会で一回ノーアウト29点をとられるようなチームでした。

そして昭和52年加藤さんと出会いました。加藤さんは何とんでも子供が大好きで子供と一緒にふざけあい子供に好かれる男でした。彼が率いるクラブ「高浜ジュニアーズ」では、彼の周りにはいつも子供たちの歓声が沸きあがっていました。いろいろな話の中で現在の少年野球連盟は、昭和54年発足した千葉市少年野球連盟(現：千葉市少年軟式野球協会)・海浜地区連盟(現：美浜区少年野球連盟)があり、そして京葉少年野球連盟を結成した苦労話を聞きました。

その後、週2回位電話があり加藤邸に伺うと「チーム作り」や「グラウンド作り」、そして「連盟運営」の話をお聞きし少年野球に対する情熱はすごい人だと思いました。その後の「幕西グラウンド作り」に大変参考になりました。

そんな事が縁で多くの人と知り合い、いろいろな連盟の運営に携わるようになりました。平成11年加藤さんが突然逝去され大変悲しく寂しい思いをいたしました。加藤さんの思いが今も京葉少年野球連盟に受け継がれていること嬉しく思います。

1976-85

1986-95

1996-2005

2006-15

2016-25

## 事務局交代 黒澤章 元事務局長



初代事務局長鈴木さんが1982年（昭和57年）に突然事務局長を退任することになり、その後任として黒澤が2代目事務局長のお鉢が回ってきた。この交代劇は、任期満了に伴い予定されたものではなく、突然の話であったため後先を考える状況ではなく、とりあえず後を引き継ぎま

しょうと軽く交代したが、その後小生のサラリーマン生活の後半生を少年野球に没頭させることになろうとは全く考えてもみなかった。

事務局としての仕事でいきなり飛び込んできたのは、抽選会の結果の組み合わせ表（所謂やぐら）を描くことであった。当時は全て手書きでスタートした。しかしワープロが出始めており、間もなくディスプレイが今のように画面となって使いやすくなり、抽選会場にワープロを持ち込み抽選しながら打ち込み、やぐらを書き上げた記憶もある。当時は各クラブとも所属選手の人員は多く、低学年の子が上の学年のチームに入る（ダブル登録）など考える必要がない時代であった。対戦を組むときの苦労はチーム数当時の方が多くにもかかわらず、ダブル登録を考慮する必要のない当時の方が容易であり、一日に消化できる試合数は多かった。

やぐらを組み、試合予定表を作成しこれをコピーして発送準備ができれば自宅に持ち帰り、封筒に詰め発送処理をするがこれを一クラブ5円で自分の子供にやらせたこともあり、市場球場に本部が設置されてからは（平成8年頃）発電機やバッテリーを持ち込み夜遅くまで事務局と審判部が居残り、処理した頃が思い出される。

幸いなことに当連盟では、2002年（平成14年）清水事務局長のご尽力によりインターネットの利用が可能となり、時間短縮、手間の省略を図り、飛躍的に便利となった。しかし、このシステムもお互いの十分な理解の上に立って初めて成り立つのだが、情報の見逃しや連絡不十分である場合には、その有用性は半減することもある。少年野球の世界はあくまで子供主体のため、大人の怠慢も子供のためだからとみな許容されているのが実態である。事務局の悩みはいつになっても変わらないようだ。

大会出場記念、応援グッズ、卒業・卒団記念etc.

1個から作ります！

# チーム オリジナルグッズ

Original Goods

写真撮影からグッズのデザインまで  
P&P浜松にお任せください！

＝ スマホから簡単入力！ ＝

チャットでお気軽にお問い合わせください。

こちらのマークが目印です ▶▶

※ショップ画面右下にあります。



オペレーターマーク

冷感マフラータオル  
¥1,400～¥2,500  
（まとめて割引対象）

テンプレートTシャツ  
¥3,400～¥4,000  
（まとめて割引対象）

株式会社P&P浜松 オンラインショップ  
https://www.pandp-h.shop/



応援のぼり



推しメンTシャツ



ユニフォームくまさん  
Uniform KUMASAN



オリジナルマスク



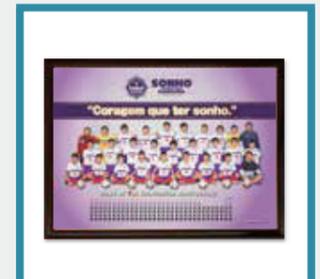
応援ツインメガホン



ユニフォームプレート



アクリルプレート



卒業・卒団パネル

一瞬の出来事を永遠の思い出に

株式会社P&P浜松  
http://www.pandp-h.com

〒435-0038 静岡県浜松市中央区三和町 252-2  
Tel:053-464-5110 Fax:053-463-0201

Follow us ▶▶ [f pp.hamamatsu](https://www.facebook.com/pp.hamamatsu) [p\\_and\\_p\\_h](https://www.instagram.com/p_and_p_h)